

施策	6302 観光ネットワークの形成							
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	余地有		
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有		
対象	観光施設の利用者							
施策が目指す姿	観光資源をつなぐサイクリングロードの整備、アンテナショップの設置、観光情報提供体制の強化を図る。							
成果指標	観光施設の年間利用者数 現状値 255万人 H29年度目標値 270万人							
目標達成状況		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
	成果指標1 [人/年]	予定	2,550,000.00	2,587,500.00	2,625,000.00	2,662,500.00	2,700,000.00	
		実績	2,163,645.00	2,209,841.00	2,603,218.00			
	成果指標2 [ ]	予定						
		実績						
	成果指標3 [ ]	単位コスト						
		予定						
	成果指標4 [ ]	実績						
		単位コスト						
	トータルコスト (千円)	予定	72,069	52,413	43,510			
実績		68,444	88,946	57,782				
内部評価	貢献度	上位施策の目標指標「観光客入込数」を向上させるため、観光資源を繋ぐ観光ルートの見直しや創出、他施策との連携、効果的な情報発信が重要であり本施策の貢献度は高い。						
	達成状況	サイクリング事業や外国人観光客の誘致促進のため受入環境の整備、定期的な宣伝活動を行ったが、目標値に対する達成状況は未達であった。						
	課題	観光資源の連携に向けては、資源等の情報や連携しやすい施策の展開が重要となり、関係者との連携できる場を設け、事業推進と共に効果的な情報提供を展開する必要がある。						
	取組方針	観光に携わる方を中心とした検討の場を設け情報の共有化を図り、連携しやすい条件を整えながら新たな事業の展開を進める。各観光協会のあり方は、引き続き検討をする。						
外部評価	本施策の成果指標の実績は上向きであり一定の評価はできるものの目標未達が続いており、その要因分析や対策を検討し、次の内部評価で示すべきである。本事業に紐づく事業として、新たに自転車を活用したイベントが開催され、好評であったことは評価に値する。観光振興の一環として自転車の活用を一層進められたい。その際にはICやスマートICの活用も検討すべきである。市内を訪れる外国人観光客が見受けられない。国や県、民間に頼らず独自のインバウンド対策を講じること。外国人観光客受け入れのハード・ソフトの環境整備も進めるべきである。							
単位施策達成のための事務事業	事業コード	名称				トータルコスト(千円)	達成度	
	313201	観光振興宣伝事業費(栃木)				16,259	100	
	313202	観光振興宣伝事業費(大平)				2,593	100	
	313203	観光振興宣伝事業費(藤岡)				8,617	100	
	313204	観光振興宣伝事業費(都賀)				1,816	100	
	313205	観光振興宣伝事業費(西方)				771	100	
	313206	観光振興宣伝事業費(岩舟)				2,443	100	
	314401	栃木県東京スカイツリーアンテナショップ事業費				2,446	100	
	711101	観光ネットワーク サイクリング事業費				2,573	100	
	724401	国際観光まちづくり事業費				12,731	100	
725701	サイクル・フルーツ・ライド事業費				5,860	100		



平成27年度

単位 施策評価表 補表

施策	6302 観光ネットワークの形成		
区分	妥当性	妥当	効果的なPR、事業展開にあたっては、観光資源間の連携による取り組みに繋げるため必要な事業であり、実施は妥当である。
	コスト削減の余地	有	事業実施における効果を検証することでコストの再確認を行い、引き続き適正な執行に努める。
	受益者負担	余地有	イベント関係では一部負担を求めているが、各種パンフレットについては、広告掲載による料金の徴収などを研究する余地はある。
	上位貢献度	有効	「観光客入込数」向上のための貢献度は有効である。
	類似事業の有無	無	他の類する事業はなく、代替は困難である。
	成果向上の余地	有	観光資源間の有機的な連携や他の施策との連携強化と共に、観光情報を一元的に発信することにより成果向上の余地はある。
内部評価	貢献度	上位施策「観光レクリエーションの振興」の目標指標「観光客入込数」を向上させるためには、点在する観光資源を繋ぐ観光ルートの見直しや創出などによる他の施策との連携、また効果的な観光情報の発信が重要となるため本単位施策の貢献度は高い。	
	達成状況	地元特産品と連携したサイクリング事業や外国人観光客の誘致促進のため受入環境の整備を実施した他、PRイベントへの参加など定期的に本市の宣伝活動を行っていたところであるが、目標値に対する達成状況は未達であった。	
	課題	観光資源をつなぐ周遊ルートの設定や様々な形の連携を形成するにあたっては、各観光施設の情報や連携しやすい施策の展開が重要となってくることから、関係者との連携できる場を設け、事業を推進すると共に、知名度の高い観光資源を活かした効果的な情報提供を展開する必要がある。	
	取組方針	観光に携わる方を中心とした検討の場を設けることで各観光施設の情報の共有化を図り、連携しやすい条件を整えながら既存周遊ルートの見直しや新たなルートの創出などの展開を進める。また、各観光協会の機能強化や今後のあり方については、引き続き検討を続ける。	

# 事

様式 1

## 栃木市事務事業評価表

平成 27 年度

会計	一般	款項目	020106	予算事業コード	711101	事業区分	02	経常的事業	新規/その他	2	その他	基本施策		単位施策		
事業名	観光ネットワーク サイクリング事業費										主	6302	観光レクリエーションの振興		観光ネットワークの形成	
担当部課 係・担当チーム名	総合政策部 総合政策課 政策調整係						担当者	鈴木 邦彦			従					
事業の性質	2	自治事務	根拠法令等				事業期間	H26 ~ H29 年度		全体事業費 (人件費除)	5,000		千円			
事業の概要	(事業完了(事業期間のない事業は平成32年度)までに、誰(何)を、どのような方法で、どうしたいのか。対象、手段の記入) ・栃木県がまち推進事業費を活用し栃木県、宇都宮市、日光市などと広域的な連携による自転車を活用した地域活性化事業としてサイクルスポーツイベントに参加し、栃木市のサイクリングコースや魅力的な観光資源のPRを行い、自転車愛好家等の新たな観光客の誘客を図る。 <b>【主要事業】</b>						達成目標	(事業完了(事業期間のない事業は平成32年度)の目標) ・市民が気軽に楽しめるサイクリングコースを紹介し新たな栃木市の魅力を感じていただき栃木市の一体感を醸成する。 ・幕張メッセで開催されるサイクルイベント(サイクルモード)に出展し、自転車愛好家に自転車を活用した観光PRを行い観光客数の増加を図る。								
	成果目標	観光施設の年間利用者数 現状値 255万人 H29年度目標値 270万人														
単位：千円、人	平成26年度決算額	平成27年度決算見込														
事業費・指標の推移	国庫支出金	0		0												
	県支出金	50		100												
	地方債	0		0												
	その他特財	0		0												
	一般財源	50		223												
	事業費 a	100		323												
	人件費 b	2,250		2,250												
減価償却費 c	0		0													
総事業費 a+b+c	2,350		2,573													
結果指標 1	1,500.00		3,000.00		指標名	算出方法		単位								
結果指標 2	6,000.00		1,500.00		PRパンフレット配布数	サイクルモードPRブース(3日間)での配付枚数 H27目標値：2,000枚		枚								
					サイクリングマップ配付数	観光拠点における年間のサイクリングマップ配付数 H27目標値：1,000枚		枚								
事業の事後評価	妥当性	妥当		コスト削減の余地	無		受益者負担	適正		上位貢献度	有効		類似事業の有無	無		
	成果向上の余地	有														
事業改善計画	(改善内容とその効果を具体的に記入) ・自転車愛好家等の誘客を推進するため、各種イベント開催時にサイクリングを通じた栃木市の魅力をPRする必要がある。 ・サイクリングコースを活用したイベントを企画していく。															
事後評価備考																